

市史編さんだより

第5回

『新編 桐生市史』編集委員

自然部会長

みやざき しげお
宮崎 重雄

「自然豊かな桐生」

桐生は、昔から山紫水明、東の京都といわれてきました。三方が山々に囲まれている地形や、古生代・中生代の地層でできている地質がよく似ていて、その自然環境が織物産業を生み出したからでしょう。



錦桜橋付近から北西方向を望む



鳴神山付近だけに分布する「カッコソウ」

ただ、桐生には南に八王子丘陵、西に名峰の赤城山、広大な大間々扇状地が存在し、京都より地形の変化に富んでいます。そのため、桐生に生息する生物もおのずと多種多様になり、特有な生物も誕生することになります。世界で鳴神山付近にしか分布していないカッコソウがその代表例です。

地質の世界でも、「桐生石」という地名のついた新しい世界でも、「桐生」が減少してきています。数の減少だけでなく、種の絶滅がかなりの勢いで加速しているといわれています。現在の桐生市の生物の生息状況を、この段階できちんと記録し、後世に残しておくことは、自然部会の大きな役割の一つと考えます。

問い合わせは市史編さん室
(☎473335)

パチリいい顔 桐生っ子

市内に居住する3歳まで（申し込み時）の桐生っ子を紹介します。

問い合わせ＝魅力発信課（☎内線505）



しみず はる
清水 陽葵ちゃん
4歳1か月
(広沢町四丁目)



しみず えま
清水 瑛末ちゃん
11か月
(広沢町四丁目)



しもやま ようた
下山 陽大ちゃん
3歳7か月
(境野町七丁目)



しもやま ひまり
下山 陽葵ちゃん
1歳2か月
(境野町七丁目)

広告